

編集後記

9月26-27日と東京パラリンピックと同じ会場の東京国際フォーラムで、テストイベントを開催しました。この大会は、東京2020組織委員会が「テストしたい」項目をテストする、という大会でした。連盟としては、せっかく晴れの舞台で試技をする選手を主役にしたいと、考えていましたが、いろいろな制約がありました。それでも、結果的には、プレゼンテーションも、パラリンピック当日の記録表示のテストもできましたし、メディアの動きや動線、ドーピング検査、選手の送迎、役員の送迎、など、確認することができました。テストをしておいたことで、本番では、何とか、迷わずできるであろうことが分かり、少し安心しました。ただ、参加人数も大会規模も何十倍、何百倍となるので、テストしたことがそのまま、通用するかどうか、少しは不安なところもあります。

言い訳になりますが、一週間ほどは自宅に戻れず、ワールドニュースも本当に遅くなりました。

忙しいというのは、本当に「心を亡くすことです。」いつも規則正しく記事をお送りいただく、竹井保満さんには、感謝の言葉しかありません。常に、世間に対峙し、問題点を洗い出し、パワーリフティングというスポーツ世界だけではなく、広く社会性のある目をもって、記事を送ってくださるので、毎月10日が楽しみです。

東京のパワーリフティングも荒川さんというリーダーを抱き、どんどん、大きく、盛り上がりのある、素晴らしい大会に育ちつつあります。

来年度の全日本大会は、東京開催と聞いています。さぞ、素晴らしい舞台と、選手の皆さんの活躍が見られるだろうと、今から楽しみです。

ちょうど、その東京での全日本が開催される頃、東京パラリンピックに出場する選手が決まりそうです。私は、パラ・パワーリフティングから、最低でも男子3名女子1名。できれば、男子5名、女子2名が参加できるとよいな、と、選手の練習を見続けています。

選手の様々な面で揺れ動く心を見ているのですが、最後は「絶対にパラリンピックに出場する、という信念」をもって、トレーニングを日々、忠実にこなしている選手が、パラリンピックに選ばれていくだろうと思っています。と、同時に、2024年のパリ大会に向けて、一步を踏み出した選手たちがいます。常に、夢を見続け、前を向いてトレーニングに励む選手に、心の底から、エールを送りたいです。（編集部、吉田寿子）

